平成25年度第2回土岐市男女共同参画懇話会

平成25年11月7日(木)

土岐市役所第1会議室 14時00分から

次 第

1. 開 会
2. 課長あいさつ
3. 会長あいさつ
4. 議 事

議 題

- (1) 次期男女共同参画プランについて
資料1 第2次土岐市男女共同参画プラン(素案)
- (2) その他

5. 閉 会

平成25年度 第2回土岐市男女共同参画懇話会 会議録

日時：平成25年11月7日（木）14:00～16:00

会場：土岐市役所 第1会議室

発言者	内 容
	議題1 次期男女共同参画プランについて
事務局	資料1 第2次土岐市男女共同参画プラン（素案）を説明
委員	DV（ドメスティックバイオレンス）についてはどこに相談したらいいのか。また、加害者を拘束できるような施設はないか。
事務局	市は子育て支援課が相談窓口であるが、事案によっては県や警察への相談になる。被害者を保護する施設はあるが、加害者については警察の対応となる。
委員	市の女性管理職について、長年庶務を担当している人が、急に係長職になり、庶務以外の事を担当するようになることで戸惑ってしまうと聞いたことがある。若い時から男女問わず多様な経験や担当を任せただ方がよいのではないか。
事務局	以前は、庶務を担当するのはほとんどが女性であったが、最近は男性も庶務を担当している。男女問わず若い時から様々な経験をし、段階を経て昇進している。
委員	男性職員が育児休暇を取得しているが、周りの反応はどうか。
事務局	女性が育児休暇を取得することについては、違和感がないが、男性職員が取得することについては、前例も少なく、違和感がないとは言えない状況であると思う。
委員	男性の育児休暇について、若い人に意識を持ってもらいたい。夫婦で6ヶ月ずつ育児休暇を取得する例が新聞に掲載されていたが、男性の育児休暇取得者が少ないのは、収入のダウンが主な要因となっているため、補償を手厚くする必要があるのではないか。20～30年後には、男性も当たり前のように育児休暇を取得している社会になっていることを期待している。
委員	宇宙飛行士の山崎直子さんの夫は、男性側が育児休暇を取得したモデルになるのではないか。
委員	男性の育児休暇取得は、これまでに何人いるか。
事務局	2人である。
委員	プラン素案のP10（1）①の中に「講演会や講座等の開催による意識啓発に努めます。」とある。以前に、財政面で開催が困難だと説明を受けていたが、今後は講演会等の開催の予定はあるのか。知恵を出せばお金をかけずに開催することも可能であり、他課の講座に組み込む等の連携を取ることも必要ではないか。
事務局	市独自ではなく、県の事業を活用するなどして講座を実施したいと考えている。他課との連携を図り、方法を検討していきたい。
委員	瑞浪市・多治見市で講演会を開催しており、なぜ土岐市で開催しないのか、と言われたことがある。土岐市でも開催してほしい。

会 長	県の講座やNP0の実施する事業を活用することも可能である。市の予算がなくても、連携をとって実施につなげてほしい。また、ホームページでの情報提供については、なかなか閲覧されないの、工夫して掲載してほしい。
委 員	P10の(2)教育、生涯学習における男女共同参画の充実について、小さいころから、男女を問わず人前で自分の意見を主張することができるような教育をお願いしたい。
事 務 局	学校の授業等でも、自分の主張を言うような取り組みは増えてきていると思う。
委 員	P13の(2)②の中で、「男性の主體的な参画を重視した学習機会や啓発を推進します。」とあるが、男女共同参画の観点からずれていると思うので、限定的な言い方は変えた方がよいのではないか。
事 務 局	県の実施したアンケート結果によると、女性に比べると男性は育児・家事等への参画率が低かったため、このような表現としたが、表現方法を検討したい。
委 員	男女の役割は半々でなくてもよいと思う。男女共同参画を推進するには、一方の性だけを対象とするのではなく、男女共に、例えば家族であれば夫婦共に男女共同参画を理解する必要があるのではないか。夫婦のコミュニケーションが大切であり、夫婦が理解し、納得して役割分担をしていくことが重要で、そうした姿が子どもにもよい影響を与える。
委 員	男女で話し合うことが大切である。家事を何もしなかった夫が、親が他界し、子どもも独立し、夫婦2人だけの生活になったことで、協力をしてくれるようになった。
委 員	相手が何を困っているのかを理解することが大切だと思う。お互いを思いやる気持ちがあれば、自然と男女共同参画は進むのではないか。
委 員	DVを受けている人の中にも、夫婦間で納得されていることから、DVだという認識がない人もいる。
委 員	DVは犯罪なので、夫婦で納得していればよいという問題ではない。
委 員	小中学校でDVの講座は開催されているか。開催されているのなら参加は可能か。
事 務 局	開催はされているが、学校等の行事であるため参加は難しいと思う。
委 員	学校で実施されるDV講座の様子を記録したようなものを見ることはできないか。
事 務 局	学校・警察等へ確認し、可能であれば次回の懇話会に手配する。話は変わるが、女性に対する暴力をなくす運動(11月12日～25日)に合わせ、図書館でDVに関する書籍等を集めた企画展を開催している。
委 員	プランに数値目標を盛り込んだことは評価できる。P14の基本目標2における数値目標で「女性委員がいる審議会等の割合」が80%とあるが、100%としない理由はあるのか。「女性管理職」も10%とあるが、もう少し高くてもよいのではないか。また、P16の基本目標3における数値目標で「DV」という言葉の認知度」とあるが、窓口相談の拡大・専門の相談員の設置等、具体的な取り組みを盛り込んだ方がよいのではないか。
会 長	市の女性管理職の割合が10%とあるのは、可能なのか。年度ごとの目標があるのか。

事務局	「女性委員がいる審議会等の割合」を80%としたのは、審議会委員の人数が少なく充て職で構成されている審議会があることから100%としていないが、構成等を含めて見直しを検討する。「女性管理職」についても、今までより早く係長職になる女性が増えてきており、職員構成等を踏まえ数値の見直しを検討する。「DV」についても具体的な取り組みをプランに掲載することを検討する。
事務局	夫婦間でのコミュニケーションは個人や各家庭での問題になり、市が関与しづらいが、何か良い取り組みはないか。
委員	夫婦共に参加する育児講座を実施しているところがある。育児講座としているが、父親向け母親向けの内容に分かれており、夫婦のコミュニケーションを図る内容も含まれている。
委員	土岐市は男女共同参画について発展途中だと思う。男女共同参画について語り合うグループ討論会や、市民活動の中に男女共同参画を取り入れたりするなど検討してはどうか。
会長	ある企業が、職場研修の中で管理職を集めて部下の仕事の配慮について気づいてもらうという研修をしたという話を聞いたことがある。夫婦間でもお互いの時間の使い方を知ることから始めてみてはどうか。男性と女性とでは家事に必要な時間が実際にも感覚的にも違う。
委員	P14の基本目標2における数値目標で「自治会等の女性の長の割合」とあるが、大垣市では自治会長を女性にやっていただくような取り組みをしていると聞いた。各委員会等での女性の割合が増えることはよいことだと思う。
委員	P11の中に「父親も授業参観や懇談会へ積極的に参加しましょう。」とあるが、最近夫婦で参加している人が増えてきた。子供のランドセルの色も、男女問わず好きな色を選択するようになってきたと思う。
会長	ランドセルの色については、男の子だから、女の子だから、といった認識にしないよう学校側の配慮・指導も必要である。
委員	母親が2人ではなく、父親の役割と母親の役割はきちんとあってほしい。行き過ぎも良くないと思う。男女共同参画の正しい理解が必要である。
委員	男女の差別はいけませんが、区別は必要だと思う。
事務局	男女共同参画の推進について、プランでも教育の分野で多くの取り組みがあるので、教育委員会へ働きかけをさせていただく。
	議題2 その他について
事務局	今後のプラン策定までのスケジュールについて説明をさせていただく。本日いただいた意見について検討し、プランの見直しに反映させる。修正した内容は各委員へ報告させていただく。あわせて、プランについてはパブリックコメントを実施する。パブリックコメント等でいただいた意見等を反映したプランを第3回男女共同参画懇話会に提出させていただく。プランの策定は来年の3月を予定している。